

謹賀新年



「力を合わせて前へ！」

大和郡市長

上田 清

明けましておめでとうございます。

平成18年度からスタートした集中改革プランリメイク大和郡山プロジェクトは「ステージ4」(令和2~6年度)に入っています。その骨子は、

- 1【財政】知恵やアイデアを結集し透明でムダのない健全財政をこれから
- 2【デジタル化】「人を大切にするデジタル化」を進めて行こう
- 3【地方創生】官民が力を合わせて元気な未来を創ろう
- 4【子育て・教育】「きょういく郷育」や「きょういく響育」を通じて心豊かな人づくりを
- 5【人生100年時代】地域の豊かなつながりと生きがいを感じるまちへ
- 6【防災・減災】ハードの整備とみんなの知恵で災害に強いまちへ
- 7【都市基盤】安心、便利、快適。次世代に自慢できるまちへ
- 8【文化・観光】歴史や文化資源が輝く魅力あふれるまちへ

今回は「シビックプライド」の向上が合言葉ですが、シビック(市民)とプライド(誇り)から生まれたこの言葉(まちに対する市民の誇り)には、よりよい場所にするために自分も関わっていくんだという意味が込められているそうです。

シビックプライドがあれば、何かやってみようという気持ち生まれ、まちづくりの動機やアイデアにつながります。ゴミ拾いのボランティア活動もそうした行動のひとつだとされています。

具体的な例としては、葛飾北斎が最晩年を過ごした長野県小布施町で行われている、手づくりの庭を日常の自然体で公開し、観光客が庭巡りを楽しめる住民参加のオープンガーデンが有名です。

コロナ禍のもと先行きが見えない状況が続いていますが、あらためて「力を合わせて前へ！」。

皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



「新年を迎えて」

大和郡山市議会議員

東川 勇夫

新年あけましておめでとうございます。

市議会を代表いたしまして、謹んでごあいさつを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界中で広がり、日本国内においても「緊急事態宣言」が発令されるなど、大きな脅威となりました。教育環境や生活スタイルはこれまでとは一変し、経済にも大きな影響を与えています。その支援として市議会では、4月から7月にかけて適宜臨時会を3回開催し、市長から提案された新型コロナウイルスの感染拡大対策関連の施策や補正予算を可決いたしました。更に、議員報酬を3カ月間減額し、その財源効果を小・中学校における修学旅行の実施費用の一助とされるなど、子どもたちの未来のために運用されるよう附帯決議を行い、市当局とともに様々な対策に取り組んでおります。

歴史的には、これまでも人類はウイルスと闘ってきました。そして、ウイルスに打ち克つたびに、必ず大きな飛躍を遂げてきたのであります。今は様々耐え忍ぶことが多い時ではありますが、新しい年を迎え、明るい陽射しが差し込むことを信じて、皆様とともに頑張っ

て参りたいと思います。さて、現在、市役所新庁舎の建設が着々と進んでいます。市役所は防災の要です。ここ数年、全国で大規模災害が発生していますが、市民の皆様の安全と安心を守るため、新庁舎が重要な役割を果たしてくれることでしょう。そして、明るい未来に向けた、市の新しいシンボルとして、市民の皆様に親しまれ、日々の生活を支える庁舎となるべく、議会としても尽力して参る所存です。

今後も、市民の皆様のより多くの声を聞きながら、市政運営に努力をしまります。

結びに、市民の皆様におかれましては、新しいこの一年が、幸多き年となりますよう祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。